

史料群番号 62

史料群名	だてよへえ 伊達与兵衛家文書		旧所蔵者	不明
探訪時住所	(静岡県清水市入江)			
現在の住所	静岡県静岡市清水区			
探訪年月	不明			
史料の年代	元禄15 (1702) 年～明治7 (1874) 年	史料の 総点数	16点	
年代の内訳	近世 14点/近代 1点/不明 1点	筆写稿本	なし	
既刊行目録	なし			

収蔵にいたる経緯

探訪に関する記録はなく、詳細は不明である。内容から、駿河伊達家に伝来した史料と思われるが、収蔵にいたる経路は分かっていない。

史料群の概要

全16点は、1点を除いてすべて豎紙あるいは折紙の書状で、近世あるいはそれ以前の史料である。封筒の表書きに14世紀の年号があり、「駿河国入江庄内下知状 前遠江守在判 伊達藤三景宗」と書かれ、作成者および宛名に「伊達七郎右衛門」「伊達与兵衛」の名が見える。以上のことから、これらの史料は駿河国入江庄を根拠地とする駿河伊達氏の家に伝来したものと考えられる。

駿河国入江庄は、現在の静岡市清水区入江あたりに存在した。14世紀半ば、観応の擾乱の際に足利尊氏から勲功の賞として伊達景宗に入江庄内の三沢小次郎跡を与えられたのが、駿河伊達氏の始まりとされている(角川地名大辞典 静岡県)。「静岡市史・古代中世史料」の駿河伊達文書中に系図があり、それによると伊達与兵衛宗信および伊達七郎右衛門宗継は元禄頃に松平三河守家臣としてその名が見えている。

